

に力学的 stress が繰返したことが腰痛の原因と考えられた。

12. MCTD に合併した腰椎椎間板障害の1例

西川晋介, 山縣正庸, 高橋和久
土田豊実, 中村伸一郎 (千大)

症例は43歳, 女性。主訴は腰痛。昭和56年第4腰椎すべり症。平成5年4月から腰痛が増悪, 椎間板炎を疑われ, 抗生剤投与を受けるも軽快せず。筋力, 腱反射, 知覚の異常はない。JOA score 12/29。画像上短期間に椎間間隙の著しい狭小化が見られた。CRP の上昇と腰痛の増悪が同期。椎間板組織の培養は陰性, 組織像にて終板の破壊と肉芽組織の侵入, リンパ濾泡が存在。MCTD による慢性腎炎, 大動脈炎症候群を合併。

13. 成人期まで放置された筋性斜頸の治療経験

山下桂志, 後藤澄雄, 喜多恒次
大河昭彦, 加藤大介, 今野 慎
茂手木博之 (千大)

成人期まで放置された筋性斜頸の1例を経験した。症例は20歳, 男性。主訴は右斜頸位・頭痛・頸背部痛で, 術前頸部可動域制限と顔面変形が存在した。胸鎖乳突筋下端と肩甲舌骨筋切除を施行し, 斜頸位と可動域制限は改善し, 疼痛も消失した。成人例の報告は極めて少ないが, いずれも満足すべき結果が得られている。本例の疼痛は筋・筋膜性の起源と考察したが, この点でも手術適応が十分あると考えられた。

14. 若年性に両手舟状骨の特異な骨変化を認めた1例

鮫田寛明, 平松健一, 荻野 透
(国保成東)

若年性に両手舟状骨骨折を認めた稀な1例を経験した。症例は11歳, 男子。左手舟状骨中央部に外傷による骨折を認め骨癒合が確認された。外傷の既往の無い右手舟状骨は中央で不整面を持ち2つの骨片に分離しており, 不整部は囊腫様変化, 石灰化の経時的変化を呈したが骨癒合変化は認めなかった。右手舟状骨に不顕性の骨折がおこり, 骨癒合せず2分し偽関節を呈した病態と考えた。

15. 当院における肘部管症候群の治療検討

大淵聡巳, 和久真一, 南出正順
松本忠男 (県立東金)

当院の肘部管症候群手術例13例の治療成績を検討し

た。平均術後経過期間5年9か月。筋層下前方移行術10例, King 法3例。赤堀の基準(1972年)では, 優4例, 良2例, 可7例, 不可0。高齢者, 手術までの期間の長いものは成績不良の傾向にあった。また術前筋萎縮著明のものは成績不良であったが, 自覚的改善は得られており, 手術を行う意義はあると思われた。また筋萎縮の回復は長期間を要し, 術後2年間は症状の改善が期待される。

16. 手根骨複合損傷により尺骨神経管症候群を来した1例

老沼和弘, 渡辺英誌, 前田勝久
金山竜沢 (渡辺病院)

手根骨複合損傷により, 尺骨神経管症候群を呈した1例を経験したので報告した。症例は56歳男性。右手関節部をプレス機に挟み受傷。3か月後, 当院受診。右環指小指の知覚鈍麻, 小指球筋の萎縮, 背側骨間筋の萎縮など, 尺骨神経管症候群を呈しており, 単純X線により有鉤骨鉤骨折, 豆状骨の脱臼を認めた。術中所見により, 脱臼した豆状骨周辺での, 尺骨神経の癒着が主な病因であったと考えられた。

17. 早期運動療法を行った Noman's land における屈筋腱断裂の治療成績

江畑龍樹, 山下武広, 今井克己
井上高志 (千葉市立)

Noman's land における屈筋腱断裂に対し, 一次的腱修復後に, Kleinert の早期運動療法を施行した症例の, 術後成績を検討し報告した。対象は, 1990年以降当院を受診した屈筋腱断裂105例中, 浅指・深指両屈筋腱を縫合した, 18症例19指である。受傷から手術までは, 平均11.3日, 術後経過観察期間は, 平均5.7ヶ月であった。% TAM 法では, 79%に, Strickland 法では, 89%に良好な成績を得, 10.5%に再断裂を認めた。

18. 椎骨動脈奇形による頸髄症の1例

古本敬明, 永瀬譲史, 板橋 孝
井合 洋 (国立千葉)
石毛尚起, 村井尚之 (同・脳外)

窓形成した椎骨動脈により頸髄症を来した1例に血管移動術を施行し, 良好な結果を得た。顔面の知覚障害や後頭部痛を伴う頸髄症例では, 上位頸椎部の奇形をはじめ種々の疾患の可能性を考慮する必要がある, スクリーニングとして MRI が有用であった。また, 椎骨動脈の